

# いじめ対応充実の手引⑬



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

## いじめが起きた場合の対応

### いじめられた児童生徒への支援といじめている児童生徒への指導

いじめと疑われる行為を発見したり、いじめの通報を受けた場合には、一人で判断したり、抱え込んだりせず、学校の「いじめ防止等の対策のための組織」（いじめ対策委員会など）と情報を共有し、速やかに関係児童生徒から分担して事情を聞き取るなどして事実関係を確認します。

#### いじめられた児童生徒への支援

##### 基本的姿勢

- ・いじめられている児童生徒の気持ちに寄り添った親身な対応をする。
- ・どんなことがあっても必ず守り通す。

##### 《訴えを傾聴し、事実を正確に把握する》

- 学級担任を中心に、児童生徒が話しやすい教職員が対応する。
- 話した勇気を認める声かけをするとともに、悔しさ、つらさにじっくりと耳を傾け、うなずきながら聞く。
- 気持ちが高ぶっているときには、話した内容を整理しながら伝えたり、落ち着くまで待ってから質問したりする。
- 5W1H（いつ（いつから）、どこで、誰に（複数）、どんな）や、そのときの気持ちを記録しておく。

受容と共感  
で安心感を

##### 《支援のあり方》

- 学校はいじめを許さないということや、今後の具体的な指導の仕方について伝える。
- 児童生徒のよさや優れているところを認め、励まし、自分のもっている力を学校生活の中で伸ばせるように具体的にアドバイスし、自信が持てるようにする。
- 学級内の座席や、グループ、係活動の分担などに配慮したり、開かれた学級集団作りをすすめたりし、授業、学級活動等での活躍の場や、友人との関係作りを支える。
- 先生たちはみんなで見守ることを伝えるとともに、いつでも相談できるように、相談の仕方を伝えておく。
- 生活ノートを通じた対話や、定期的な相談を行い、不安や悩みの解消に努める。

#### こんな対応はNO!

- 深刻な訴えに対して、「そんなこと気にせずにごんばりなさい」とか、「あなたにも問題があるのではないか」などと不用意に言うてしまう。
- 問題解決を急ぎ、いじめた児童生徒に対して一方的に注意したり、叱ったりする。または、「注意しておくから大丈夫だ」などとその場ですませてしまう。
- 事実を十分確認せずに、いじめた児童生徒との話し合いの場を設ける。
- 本人やいじめた児童生徒の指導が不十分なまま、謝罪を急ぐ。

## いじめた児童生徒への指導

### 基本的姿勢

「いじめは絶対に許されない」との認識のもと、行為に対しては毅然とした指導をする。いじめを完全にやめさせる。

いじめをしてしまった動機や背景に理解を示すように努める。

### 《事実を正確に把握する》

- 対応する教師は中立の立場で事実確認を行う。
- 話しやすい話題から入りながら、真実を話すように促し、事実を認めさせる。
- いじめられた児童生徒の気持ちになって考えさせ、ことの重大性に気づかせる。
- 不安や不満など背景となったことにも耳を傾ける。
- 複数にまたがる場合は、教師が分担して同時進行で聴き取る

いじめの構造を  
明らかにする

### 《指導のあり方》

- いじめを完全にやめさせる。継続的に見守る。
- いじめは決して許されないことをわからせる。
- いじめられた児童生徒の意向に沿い、心から謝罪できるように指導する。
- いじめの背景となる自分の心情や、集団内等での立場を振り返らせたりしながら、今後の行動の仕方について考えさせる。
- 授業や学級活動等を通して、エネルギーをプラスの行動に向かわせ、よさを認めていく。
- 生活ノートや面談などを通して、今まで以上にかかわりを持ち、教師との信頼関係を構築する。

いじめの背景を共感的に  
理解し、自らの力で問題  
解決を図れるように。

**こんな対応はNO!**

- 報告・連絡・相談をせず、教師が自分一人で解決を焦る。
- 高圧的に叱責したり、罰を与えたりする。
- 学級の児童生徒の前で非難したり、人格を否定するような言葉を発したりする。
- 過去の出来事や、児童生徒のふだんの行動をいじめと結びつけて指導する。
- いじめられた児童生徒の同意もないのに、謝罪を促す。

学校内では「おやっ?」「何か様子を変だな」と感じる場合があります。そのときにどうするか  
が初期対応の最も重要な部分です。

事案によっては自分の力で解決できることもあるでしょう。でも、自分で解決したと思っていた  
ことが解決になっていなかったり、あとに火種を残すことになっていたりするかもしれません。だ  
から、誰かに必ず伝えることが欠かせないのです。「こんなことあるんだけど、いじめられている  
のかなあ?」「こんなことあったから、こんな指導したよ。」先生同士のそんな会話こそ組織的対応  
の第一歩です。

誰かに相談できる先生たちや、相談しやすい職員集団の雰囲気、子どもたちの安心・安全を守  
っているのではないのでしょうか。